

ホスピタリストがリウマチ膠原病疾患の診断および診療に携わる場面は少なからずあります。さまざまなパターンの主訴を呈するリウマチ膠原病疾患を診断するためには、問診と身体診察から鑑別診断を考え、絞り込んでいく症候別のアプローチが重要になります。入院にかかわる場面では、すでにリウマチ膠原病疾患の診断がついている症例が重症化する場合、または、診断のついていないケースが、緊急・重症な状態で一般内科病棟に入院する場合があります。リウマチ膠原病疾患を疑いながらも、他疾患との鑑別が必要となり、内科病棟にて診断、検査、緊急治療に対応しなければならない場合もあります。また、膠原病専門医が不在であったり、すぐにコンサルトできない場合もあります。ホスピタリストとして、リウマチ膠原病疾患の緊急重症病態にどのようなものがあるのか、どのように対応しなければならないのか、いつ専門医へコンサルトするのかを知っておかねばなりません。

本特集の「総論」では「症状からの診断アプローチ」として、診断に至るまでの思考プロセスを示します。「各論」では外来典型症例と入院が必要となるような症例を取り上げ、エビデンス、ピットフォールをふまえながら診断と治療を解説します。ジェネラリストとして、リウマチ膠原病疾患について理解すべき点を確認し、臨床で役立つ実践的内容をまとめます。

総論：症状に対する診断的アプローチ

- ① 発熱 fever 聖路加国際病院 アレルギー膠原病科 六反田 諒
- ② 関節炎 arthritis 亀田総合病院 リウマチ・膠原病・アレルギー内科 養田 正祐, 松井 和生
- ③ 皮膚症状 skin 手稲溪仁会病院 家庭医療科 星 哲哉
- ④ 呼吸症状 respiratory 杏林大学医学部 呼吸器内科 山谷 健
- ⑤ 神経・筋症状 muscle weakness 帝京大学ちば総合医療センター 内科 竹島 雄介, 萩野 昇
- ⑥ 眼, 耳, 鼻, 口 中部ろうさい病院 リウマチ・膠原病科 野村 篤史
- 血液検査 聖路加国際病院 アレルギー膠原病科 陶山 恭博
- 免疫抑制剤 ① DMARDs, TNF- α , NSAIDs, COX2, CD20 聖路加国際病院 アレルギー膠原病科 土師 陽一郎

- 免疫抑制剤 ② ステロイド 練馬光が丘病院 リウマチ内科 岩波 慶一
- 【コラム】関節X線の見方 聖路加国際病院 アレルギー膠原病科 岡田 正人

各論

- 関節リウマチ (RA) 横浜南共済病院 リウマチ感染症内科 井畑 淳
- 全身性エリテマトーデス (SLE) 聖路加国際病院 アレルギー膠原病科 清水 久徳
- リウマチ性多発筋痛症 (PMR), 側頭動脈炎 (giant cell arteritis) 沖縄県立中部病院 総合内科 金城 光代
- 血管炎 亀田総合病院 リウマチ・膠原病・アレルギー内科 押川 英仁, 松井 和生
- 全身性強皮症, 皮膚筋炎 (DM)/多発性筋炎 (PM) 亀田総合病院 リウマチ・膠原病・アレルギー内科 仲野 寛人, 松井 和生
- 痛風/偽痛風/化膿性関節炎 武蔵野赤十字病院 膠原病・リウマチ内科 宇都宮 雅子
- 脊椎関節炎 Cleveland Clinic 田巻 弘道
- Behçet病 聖路加国際病院 アレルギー膠原病科 岸本 暢将
- Sjögren症候群 東京都立多摩総合医療センター リウマチ膠原病科 横川 直人

- 【コラム】内分泌疾患と関節症状DM：併存しやすい疾患 帝京大学ちば総合医療センター 内科 宮本 真由子, 萩野 昇

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

● BackNumber

■ Vol.1 (2013年)

No.1 ホスピタリスト宣言

No.2 感染症

■ Vol.2 (2014年)

No.1 腎疾患

No.2 膠原病

No.3 消化管疾患

No.4 緩和ケア

「せっかくの不正解」の文字に引きずられ、中吊り広告を注視すると、大きく「せっかくの不正解から目をそらさない」、その下に、「自分で解くから合格する」とあり、学習塾の広告、正解を求める受験生に、“不正解”を減多に得られない好機と捉えさせよというのはさすが、と感心したわけです。答えを得ることを優先するあまり、そこに至る過程が重視されない風潮があるのは残念。STAP細胞に関して、福岡伸一氏が「科学は本来、もっとじっくり『How (どのように)』を問うべきものだ」と新聞にコメントしていました。何にしても、同じこと。いわゆるマニュアルがもてはやされるのはいいとしても、それを真に使いこなせるのは、さまざまな過程を経てそれを完成させたマニュアルの作成者たちではないのでしょうか。ということで、目の前の問題を自分で解くために、そのベースとなる知識と解き方を仕入れなければなりません。特集「腎臓病」は1.5倍のボリュームになりました。

● 広告一覧

医学書院……36, 94, 194

聖マリアンナ医科大学

横浜市西部病院 救命救急センター……267

明治……表2

Vol.2 No.1 2014年3月1日発行〔年4回 (3, 6, 9, 12月1日) 発行〕

Hospitalist

発行者 若松 博

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
電話：編集部 03-5804-6056 FAX：編集部 03-5804-6054
販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055
URL：http://www.medsico.jp Eメール：hospitalist@medsi.co.jp
振替：東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161

広告取扱 メディカルブレーション 電話03-3814-5980

日本医学広告社 電話03-5226-2791

文京メディカル 電話03-3817-8036

福田商店広告部 電話06-6231-2773

ISBN 978-4-89592-937-0

(1部) 定価：本体4,600円＋税
2014年年間購読料：19,008円 (4冊, 税込, 送料弊社負担)

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は (株)メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為 (複写, スキャン, デジタルデータ化など) は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて、業務上使用する目的 (診療, 研究活動を含む) で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】<社出版者著作権管理機構 委託出版物> 本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に社出版者著作権管理機構 (電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。